パネル F　　【Zoom】【SK112 教室】5 日（日）　13: 00～15: 00

オープンサイエンスの時代のラテンアメリカと日本の学術情報発信

責任者：村井友子（日本貿易振興機構アジア経済研究所）

１．趣旨説明

近年、オープンサイエンスの推進、すなわち、あらゆる人が学術的研究、政府情報、その他の各種情報に自由にアクセスし、研究活動やビジネスに利活用できるように整備し、サイエンスを発展させていく運動が活発化し、世界的な潮流となっている。

本分科会では、このオープンサイエンスの推進において重要なファクターとなる「学術情報流通のオープン化」をテーマとし、ラテンアメリカ地域と日本の現状と課題について比較検討を行う。

ラテンアメリカは、過去およそ 20 年にわたり、学術雑誌、論文、研究データ、書籍を誰でも無償かつ自由にインターネットで閲覧できるように公開する学術情報インフラを地域間の連携協力により構築し、維持発展させてきた実績を持つ地域である。

なかでもオープンアクセスジャーナルは、SciELO （Scientific Electronic Library Online）や RedALyC (Sistema de Información Científica RedALyC)などの、学術雑誌の共同電子出版プラットフォーマーの活躍により大きな発展を遂げ、現在、ラテンアメリカは世界で最も多くの非営利出版のオープンアクセスジャーナルを刊行する地域になっている。

本分科会では、ラテンアメリカのオープンサイエンス運動のフロントランナーである、アリアナ・ベセリル・ガルシア(Ariana Becerril-García)、長年日本の学術情報のオープンアクセス化を牽引してきた谷藤幹子、ラテンアメリカ地域を専門とするサブジェクトライブラリアンとして活動を続ける村井友子の 3 名がオープンサイエンスの世界的潮流のなかでのラテンアメリカと日本の学術情報発信の現状と課題について発表する。

本分科会の報告を通じて、学術情報プラットフォームでオープンアクセスな研究成果にアクセスできることの意義、ならびに、研究者が自身の研究成果をオープンアクセスで公開していくことの意義を伝えたい。

２．発表者プロフィール

・Ariana Becerril-García

メキシコ州立自治大学（UAEM）政治社会学部教授　RedALyC の創設者・代表。
2018 年にはラテンアメリカ社会科学協議会（CLACSO）と協力して AmeliCA（RedALyC が推奨するオープンアクセスジャーナルのあり方を世界に広める活動を行うネットワーク）を発足させ、世界でオープンサイエンス推進運動を展開中。専門はコンピューターサイエン

ス。

・谷藤幹子

国立研究開発法人物質・材料研究機構　総合型材料開発・情報基盤部門材料データプラットフォームセンター・センター長、内閣府研究データ基盤整備と国際展開ワーキンググループ、文部科学省のジャーナル問題検討部会等の委員を務め、日本の学術情報のオープンアクセス化・オープンサイエンス・オープンデータを牽引。

・村井友子

独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所図書館コーディネーター。元学術情報センター長。専門図書館協議会研修委員長。ラテンアメリカを専門とするサブジェクトライブラリアン。

3. 当日のパネルの進行

2022 年 6 月 5 日（日曜日）13 時 00 分～15 時 00 分

メキシコ時間 6 月 4 日（土曜日）22 時 00 分～24 時 00 分

司会　清水達也（日本貿易振興機構アジア経済研究所）趣旨説明：５分

発表者１　村井友子：20 分

「ラテンアメリカと日本の学術情報プラットフォームの現状と課題」

発表者２　アリアナ・ベセリル・ガルシア：30 分

「進展するラテンアメリカのオープンサイエンス運動」

発表者３　谷藤幹子：30 分

「世界と日本のオープンサイエンス：ジャーナル問題を中心に」

コメンテータ１　則竹理人（日本貿易振興機構アジア経済研究所）：10 分

コメンテータ２　武田和久（明治大学）：10 分

全体討議：15 分

＊発表はすべて英語で行う。